

柔整受療行動の調査・分析結果について

～「部位転がし」が疑われる施術とは～

令和8年1月30日
健康保険組合連合会

調査の概要

1. 経緯

柔整療養費令和6年改定において、次回の令和8年改定に向けた引き続きの検討事項として、「いわゆる「部位転がし」が疑われる事例について、調査・分析及び必要な対応のあり方に係る検討を進めること。」と明記された。については部位転がしが疑われる受療行動について調査・分析を行った。

2. 目的

「部位転がし」が疑われる受療行動の状況並びにその様々な類型等について調査分析を行い、令和8年改定における対応を検討する。

3. 調査データ

■ 柔整療養費支給申請書（※提供許可を得た29健保組合のデータを活用）
2023年4月受療分～2024年3月受療分 約62万件全受療者 n(人)=169,272

4. 注意事項

■ 各種統計数値は申請書に基づいて算出しており、誤差の範囲で、正確性を欠く部分がありうるが、調査結果に影響を与えるものではない。
＊治癒等には、転帰欄の治癒以外に中止、転医が含まれている場合がある。

1. 「部位転がし」に関する基礎情報

「部位転がし」の特徴について

平成28年5月13日厚労省柔整検討専門委員会資料

不正の疑いのある請求として考えられる事例

- これまで講じてきた適正化策の影響を逃れるため、同一患者において負傷と治癒を繰り返すといった、いわゆる「部位転がし」という請求方法が新たな不正請求の手口として指摘されている。また、同一施術所において、同様の負傷内容等の患者が多数存在する場合も、一般的には不自然な請求であるといわれている。

申請内容からみた場合の傾向

いわゆる「部位転がし」の特徴として、以下の点が指摘されている

- ・負傷部位が1部位または2部位であること（3部位未満）
- ・短期間のうちに治癒と負傷を繰り返していること（3か月未満）
- ・結果として、同一施術所における同一患者の受療期間が長期となっていること

施術所単位でみた場合の傾向

同一月の請求において、以下に該当する患者が多数存在するような施術所は、不自然ではないか、との意見がある

- ・負傷原因や負傷部位など同一の患者が多数
- ・理論上発生しづらい複数の部位を同時に負傷した患者が多数
- ・複数の負傷部位がすべて同日（月末）に治癒した患者が多数
- ・転帰が治癒となった翌月に、新たに別の部位を負傷した患者が多数

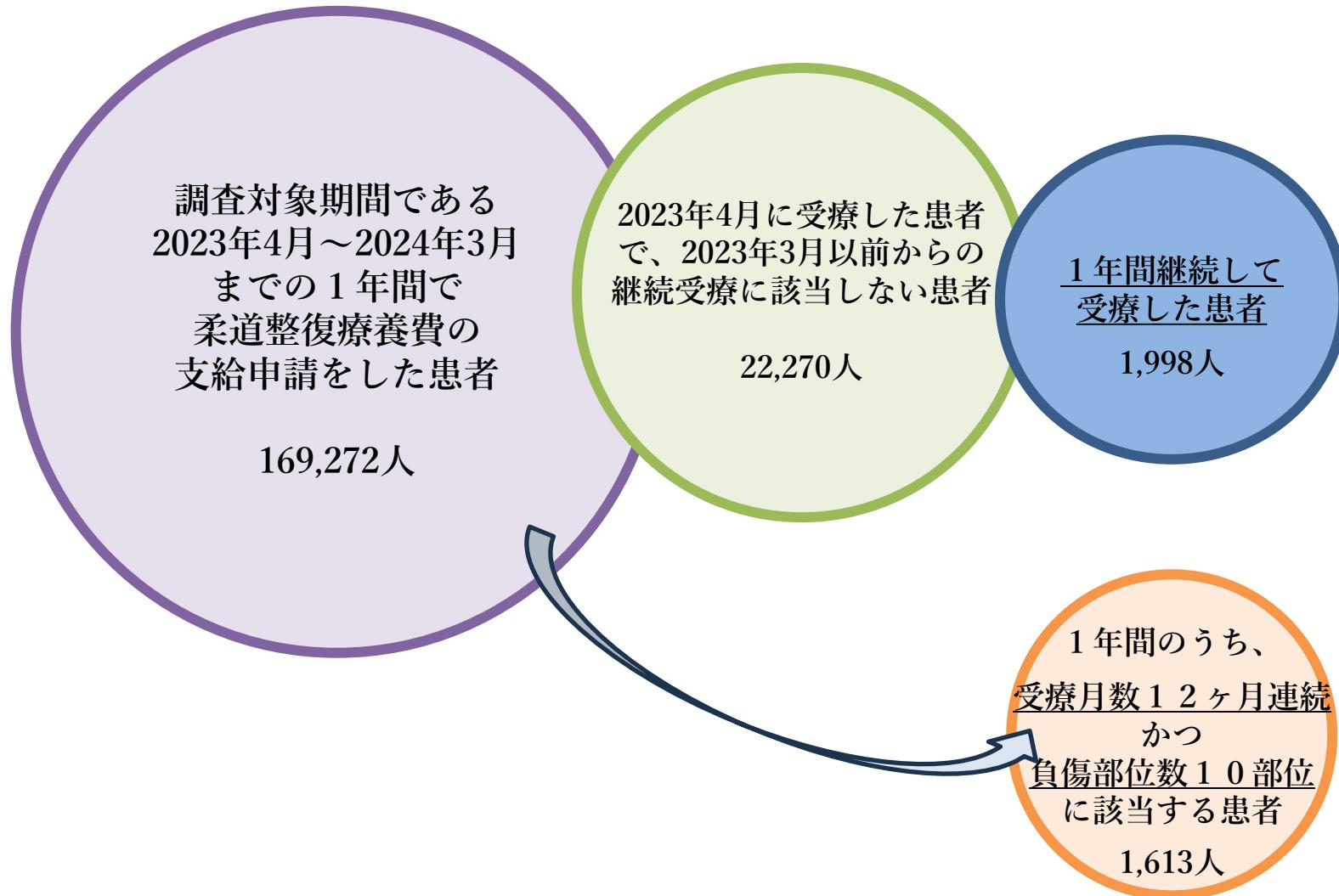
「部位転がし」請求が行われる理由

- 初検料、初検時相談支援料、再検料、施療料等を算定することができるため
- 患者照会等のルールにある長期（3ヶ月超）・頻回（月10回以上）・多部位（3部位以上）の施術内容を請求しないことで、保険者からの患者照会等を避けるため
- 3部位を超える施術に対する遅減を回避しながらより多くの部位を施術するため
- 5ヶ月を超える施術に対する長期遅減の適用対象となることを避けるため
- 捻挫・打撲・挫傷における3ヶ月を超過した施術に対して書類添付が義務づけられている「長期施術継続理由書」の提出を避けるため

2. 受療行動の調査・分析

受療行動の調査・分析の対象

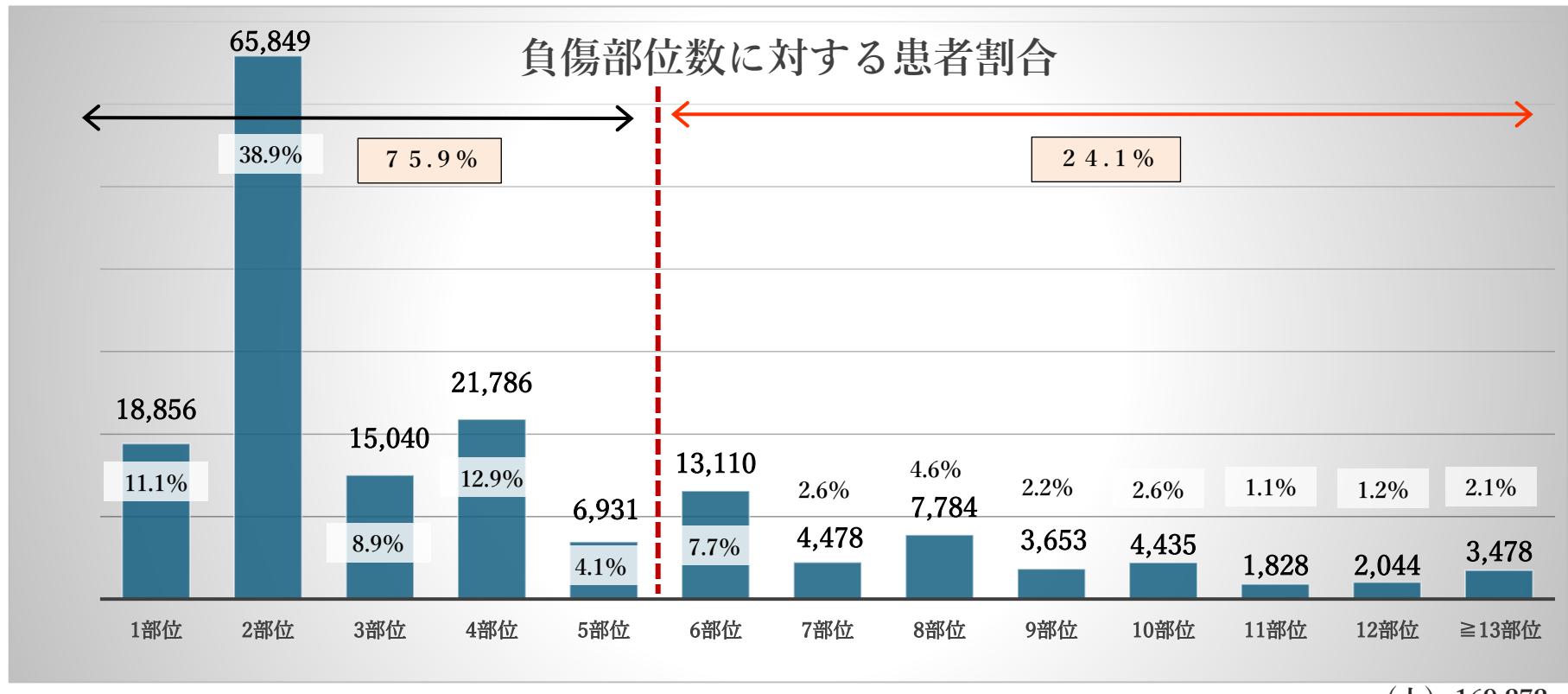
「部位転がし」の調査分析のために、下記の絞り込みをおこなった。



施術部位数の状況

● 施術部位数の状況

- ・負傷部位数に対する患者数及びその割合



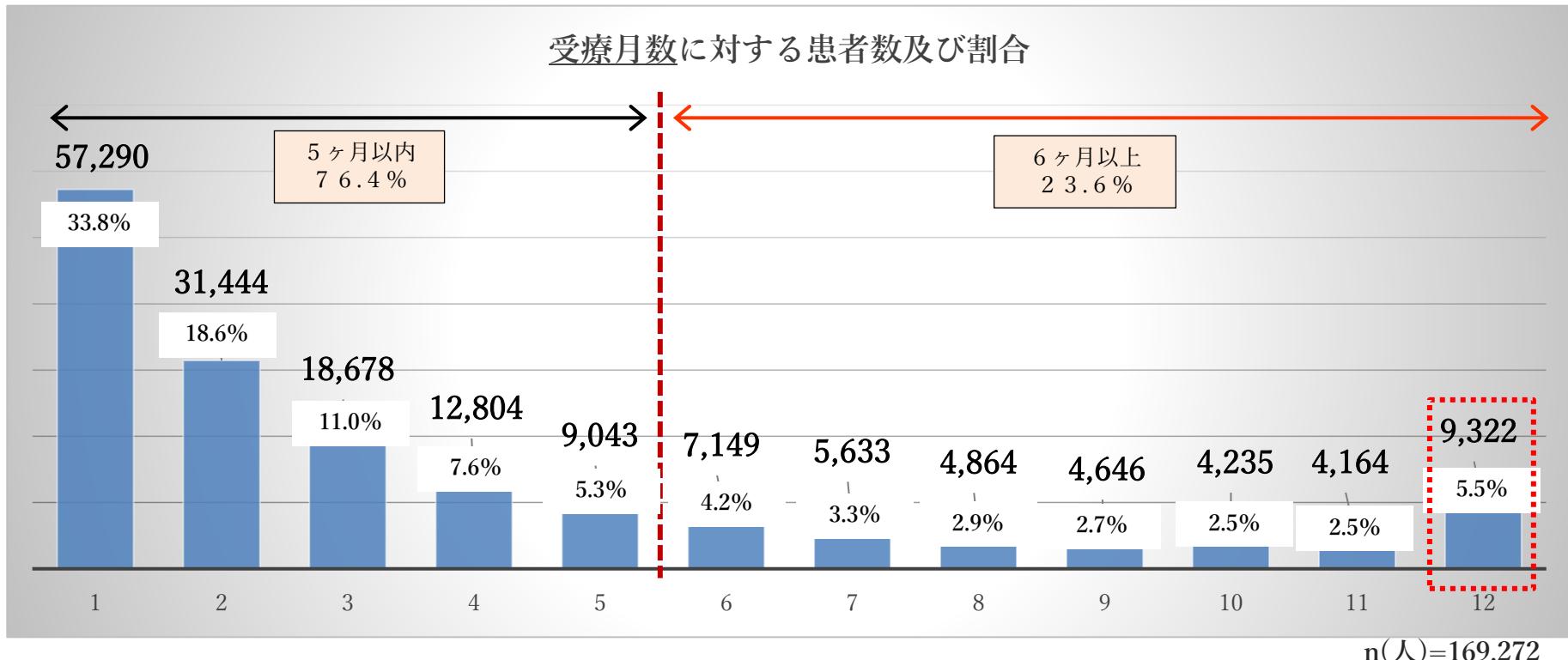
グラフから読み取れる傾向

- ・2部位が約38.9%と圧倒的に多く、2部位までが約50.0%、5部位までが約75.9%であった。
- ・6部位以上は、約24.1%であった。

施術月数の状況

● 受療月数の状況

- ・受療月数毎の患者数及びその割合



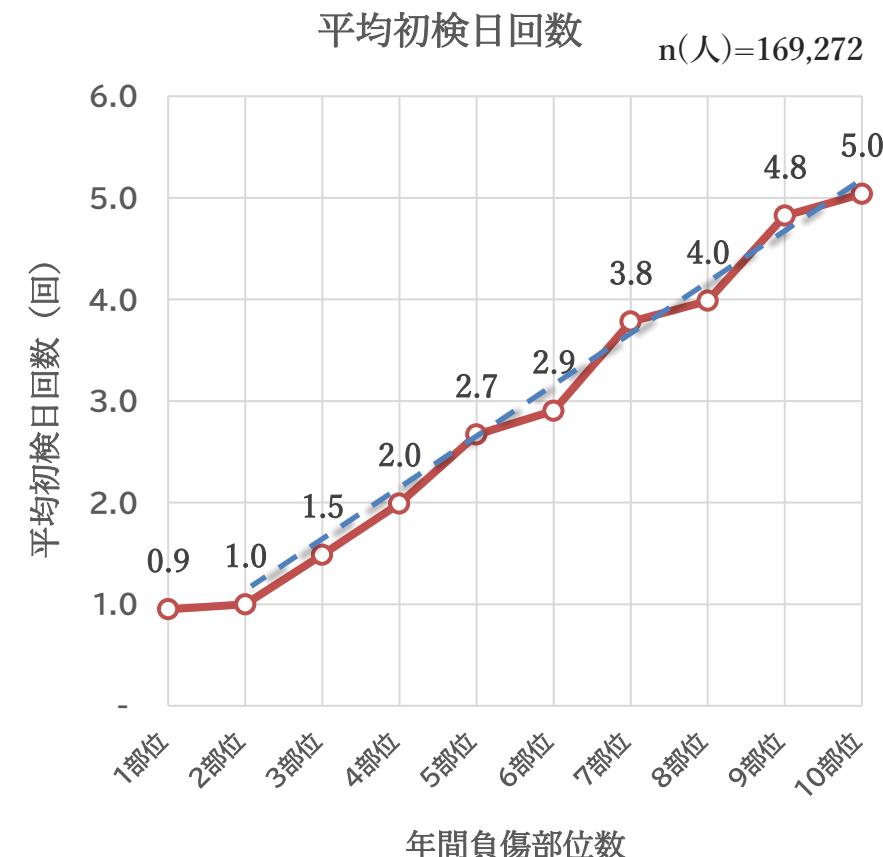
- 受療月数の最多は1ヶ月で約33.8%で、約76.4%が5ヶ月以内であった。
- 6ヶ月以上は、約23.6%であり、なかでも、12ヶ月連続で受療している患者の割合が高い。

負傷部位数と初検日回数の相関

※初検日は、「施術を開始した日」であり、新たに負傷を開始したことを示している。

初検料算定日とは異なる。

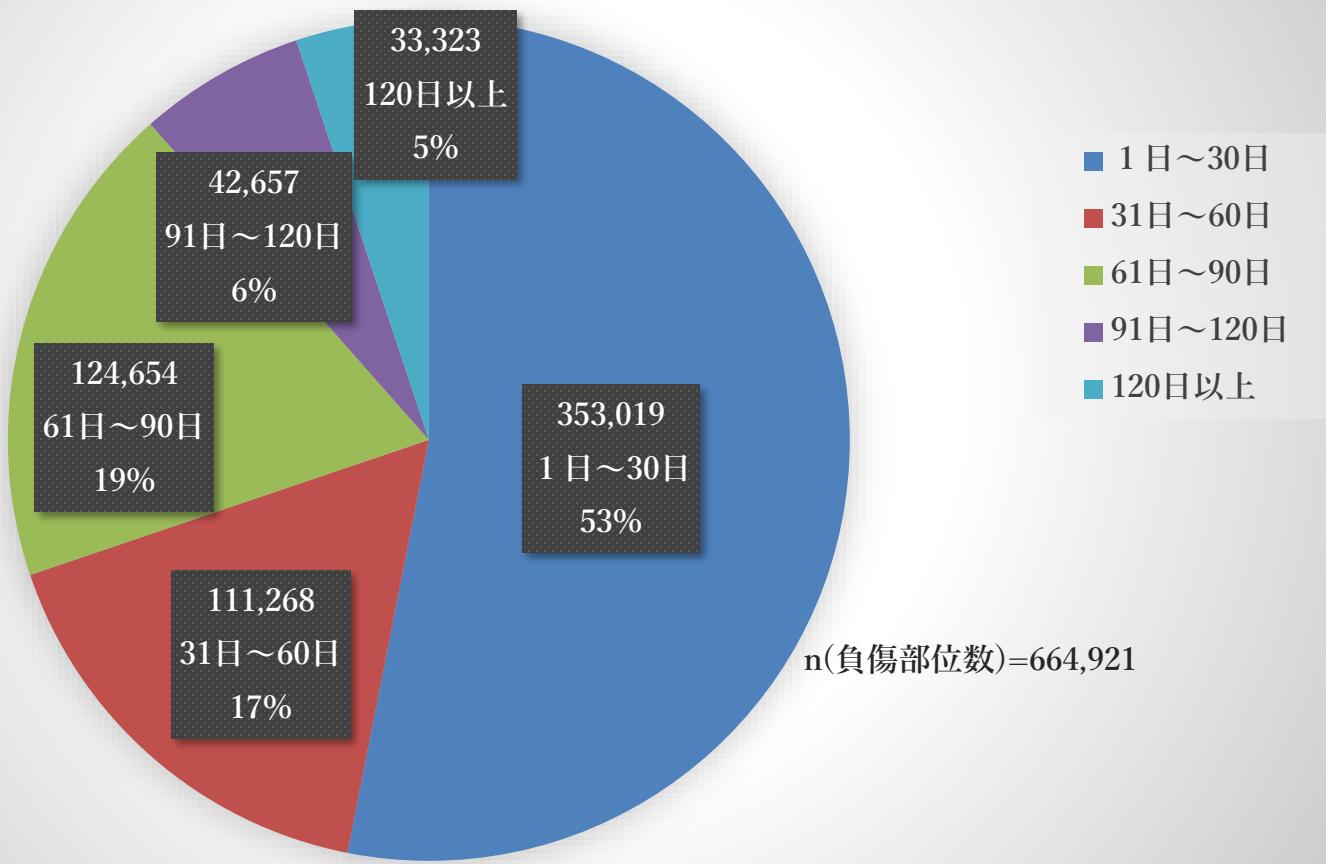
	受療者数	年間初検日回数	平均初検日回数
1部位	18,879	17,930	0.9
2部位	65,902	65,776	1.0
3部位	15,131	22,486	1.5
4部位	21,701	43,210	2.0
5部位	6,960	18,574	2.7
6部位	13,077	37,970	2.9
7部位	4,487	16,968	3.8
8部位	7,738	30,836	4.0
9部位	3,675	17,728	4.8
10部位	4,410	22,223	5.0
11部位+	7,312	47,222	6.5
	169,272	340,923	2.0



- 平均初検日回数に比例して、負傷部位数も増加している。
- 新たな負傷1回につき、平均2部位施術している。

部位毎の施術期間の状況

施術期間（部位数単位）



- 受療期間は30日（1ヶ月）以内が約5割を占めており、90日（3ヶ月）以内が約9割を占めている。

初検料算定回数の状況

- 年間初検料算定回数の人数割合
- 初検料算定回数と負傷部位数の相関

■ 全体		初検料算定回数															合計	構成比	累計		
		0回	1回	2回	3回	4回	5回	6回	7回	8回	9回	10回	11回	12回	13回	14回	15回+				
負傷部位数	1	1,151	17,704	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	18,856	11%	11%	
	2	5,417	57,743	2,689	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	65,849	39%	50%	
	3	1,737	9,012	3,611	680	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	15,040	9%	59%	
	4	975	4,817	14,895	881	218	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	21,786	13%	72%	
	5	598	1,613	2,961	1,368	309	82	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6,931	4%	76%	
	6	778	1,402	4,355	6,077	365	97	36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13,110	8%	84%	
	7	559	715	1,112	1,393	553	102	26	18	-	-	-	-	-	-	-	-	4,478	3%	86%	
	8	578	668	817	2,576	2,954	144	34	9	4	-	-	-	-	-	-	-	7,784	5%	91%	
	9	673	474	549	957	700	222	54	15	4	5	-	-	-	-	-	-	3,653	2%	93%	
	10	491	364	354	503	1,515	1,134	54	8	7	3	2	-	-	-	-	-	4,435	3%	96%	
	11	235	190	209	291	464	305	100	23	8	2	-	1	-	-	-	-	1,828	1%	97%	
	12	195	136	148	235	370	406	519	22	5	2	2	2	2	-	-	-	2,044	1%	98%	
	13	183	82	70	90	155	134	88	53	8	8	-	2	-	1	-	-	874	1%	98%	
	14	159	68	44	45	98	93	190	182	14	2	2	-	-	-	-	-	897	1%	99%	
	15	79	35	21	23	143	90	71	49	17	6	1	1	-	-	-	-	536	0%	99%	
	16	30	20	19	25	40	33	44	51	91	10	-	-	-	-	-	1	-	364	0%	100%
	17	13	9	7	9	8	23	24	20	23	7	2	2	1	-	-	-	148	0%	100%	
	18	6	2	5	5	11	35	37	14	26	50	3	-	-	-	-	-	194	0%	100%	
	19	6	1	2	4	4	3	6	6	10	14	12	-	1	-	-	-	69	0%	100%	
	20	6	1	1	1	2	7	8	12	7	18	34	7	1	-	-	-	106	0%	100%	
	21	1	3	1	4	3	3	14	19	7	3	6	1	-	-	-	-	65	0%	100%	
	22	3	2	-	-	3	2	4	8	3	4	6	18	3	-	-	-	56	0%	100%	
	23	3	-	-	-	1	-	3	2	-	2	2	7	2	1	-	-	24	0%	100%	
	24	4	140,818人	1	2	1	2	-	5	4	2	4	2	42	-	1	-	71	0%	100%	
	25+	3	1	-	-	1	7	2	2	4	2	10	13	9	8	2	3	7	74	0%	100%
合計		13,883	95,063	31,872	15,170	7,924	2,919	1,314	520	240	148	89	52	60	4	6	8	169,272	100%		
構成比		8.2%	56.2%	18.8%	9.0%	4.7%	1.7%	0.8%	0.3%	0.1%	0.1%	0.1%	0.03%	0.04%	0.002%	0.004%	0.005%		100%		
累計		8.2%	64.4%	83.2%	92.2%	96.8%	98.6%	99.3%	99.6%	99.8%	99.9%	99.9%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%				

n(人)=169,272

- 初検料算定は2回以内が約14万人で約83%、3回以上は約3万人で、全体の5分の1（約17%）となっている。5回目以上は急減する傾向にある。
- 初検料算定回数と負傷部位数の相関については、初検料算定回数1回は2部位の患者が最も多く2回4部位、3回6部位、4回8部位、5回10部位、6回12部位がそれぞれ多く、比例している。

分析結果による施術の傾向

傾向 1：負傷部位数

- 年間負傷部位数は2部位が最も多く、受療者の約75%（約4分の3）が5部位以内である。

傾向 2：受療月数

- 受療月数は1ヶ月が最も多く、受療者の約75%（約4分の3）が5ヶ月以内である。

傾向 3：施術部位数

- 1回の負傷につき平均2部位の施術が行われている。（1回/2部位、2回/4部位、3回/6部位）

傾向 4：施術期間

- 1つの部位の施術期間は30日（1ヶ月）以内が約5割を占めており、90日（3ヶ月）以内が約9割を占めている。

傾向 5：初検料算定回数

- 初検料算定は2回以内が約8割を占める。初検料算定回数と負傷部位数の相関については、1対2の関係である。

3. 年間継続的に施術を受けている患者層の受療形態

対象

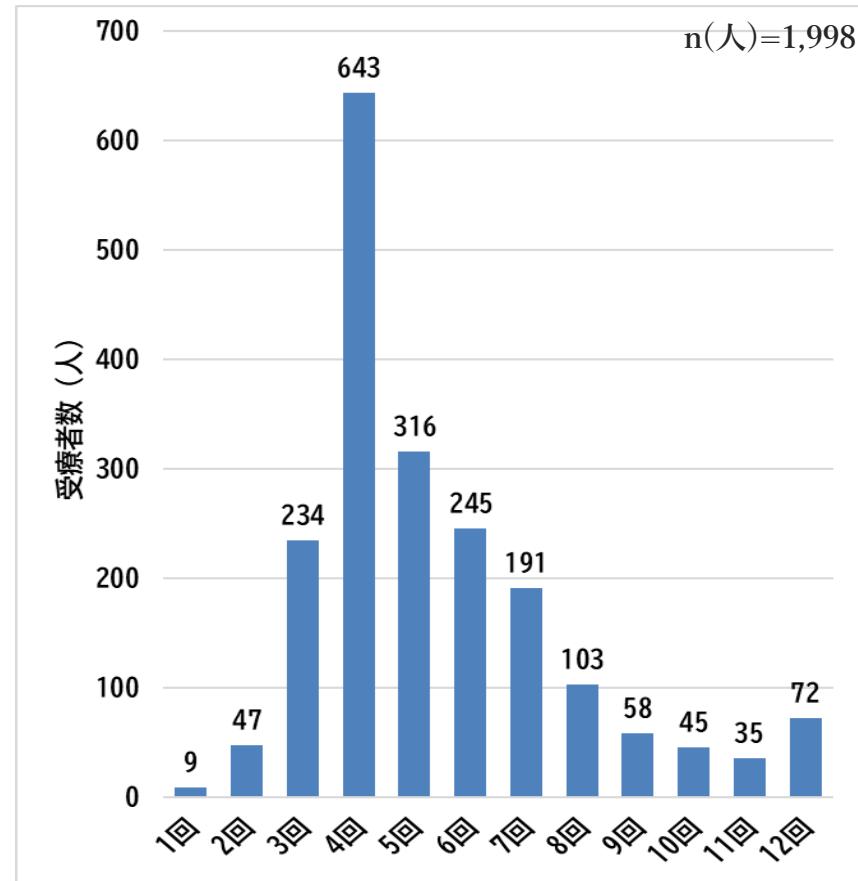
2023年4月に受療を開始
し、1年間継続して
受療した患者

1,998人

初検日の回数の分布

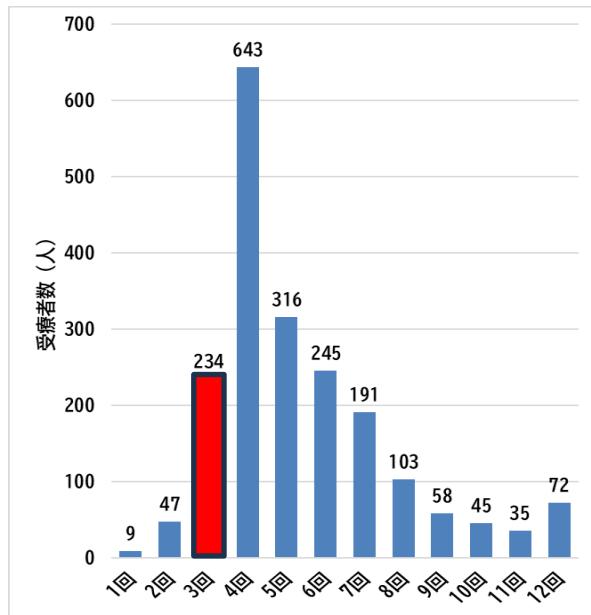
※初検日は、「新たな部位の施術を開始した日」であり、新たに負傷を開始したことを示している。
初検料算定日とは異なる。

	受療者数	構成比
1回	9	0.5%
2回	47	2.4%
3回	234	11.7%
4回	643	32.2%
5回	316	15.8%
6回	245	12.3%
7回	191	9.6%
8回	103	5.2%
9回	58	2.9%
10回	45	2.3%
11回	35	1.8%
12回	72	3.6%
総計	1,998	100.0%



- 新たに負傷した回数が3回～6回の範囲で全体の72%を占めている。
- この形態は、2～4ヶ月毎に治癒と新たな負傷を繰り返しているパターンが一定割合存在する。（次ページ以降参照）

「部位転がし」が疑われる主なパターン分類



■初検日（新たな負傷）回数が3回

該当する234人中、**80名(34.2%)**が
4ヶ月ごとに負傷と治癒等を繰り
返していた。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----



「部位転がし」が疑われる主なパターン分類

■初検日（新たな負傷）回数が3回の実例

	負傷名	負傷日	初検日	施術終了日	令和5年 4月	令和5年 5月	令和5年 6月	令和5年 7月	令和5年 8月	令和5年 9月	令和5年 10月	令和5年 11月	令和5年 12月	令和6年 1月	令和6年 2月	令和6年 3月	申請回数	実日数
①	右股関節捻挫 *1	04/14	04/15	07/25													4	37
	腰部捻挫 *2			07/31	●												4	39
	左大腿部挫傷 *3			07/28													4	38
②	左前腕部挫傷	08/14	08/16	11/27													4	39
	背部挫傷			11/24					●								4	38
	頸部捻挫			11/29													4	40
①	右股関節捻挫 *1	12/10	12/11	03/21													4	38
	腰部捻挫 *2			03/25													4	39
	左大腿部挫傷 *3			03/18													4	37

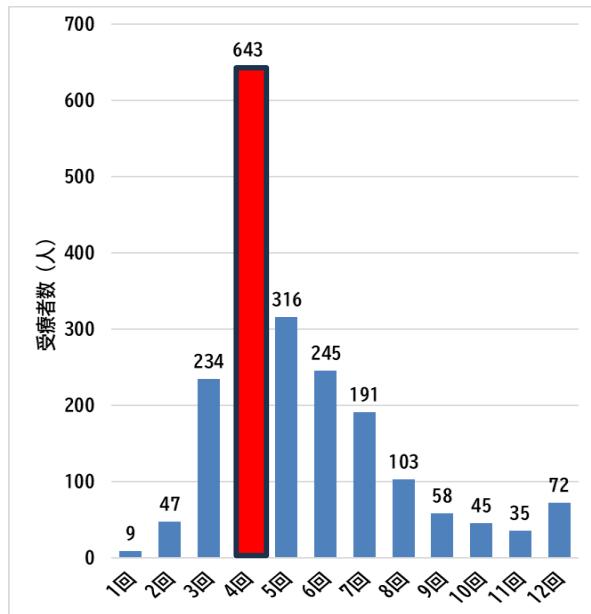
●は初検料

負傷名の * は同じ部位が繰り返し請求

負傷回数 : 3回
 負傷部位数 : 9部位
 実日数 : 118日
 (平均 9.8日／月)
 請求金額 : 133,065円

- 同一部位が繰り返し請求されている。
- 4ヶ月毎に全て治癒し、それぞれ初検料を算定している。

「部位転がし」が疑われる主なパターン分類

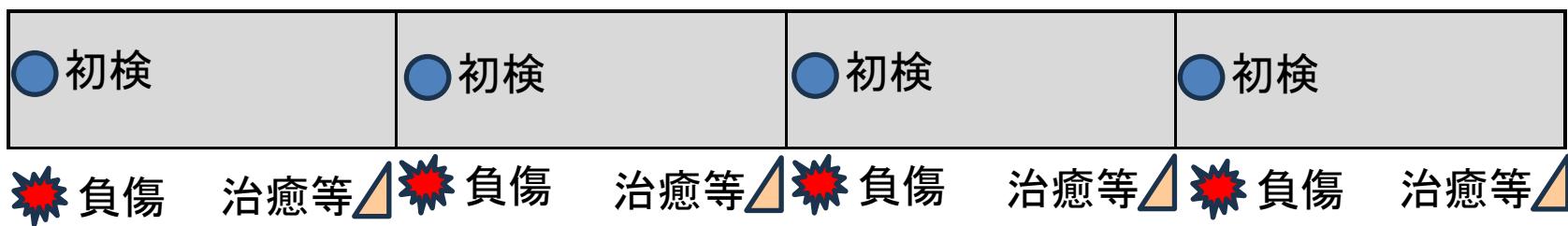


■初検日（新たな負傷）回数が4回

該当する643人中、**389名(60.5%)**が
3ヶ月ごとに負傷と治癒等を繰り返
していた。

（毎月受療者（1,998人）の約20%を
占めており、「部位転がし」の典型的
的な受療パターンとなっている）

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----



「部位転がし」が疑われる主なパターン分類

■初検日（新たな負傷）回数が4回の実例

負傷名		負傷日	初検日	施術終了日	令和5年4月	令和5年5月	令和5年6月	令和5年7月	令和5年8月	令和5年9月	令和5年10月	令和5年11月	令和5年12月	令和6年1月	令和6年2月	令和6年3月	申請回数	実日数
①	右股関節捻挫 *1	04/01	04/01	06/22													3	48
	右膝関節捻挫 *2				●												3	47
	腰部捻挫 *3				06/24												3	49
②	左肘関節捻挫 *4	07/21	07/22	09/27													3	37
	左肩関節捻挫 *5				09/29	●											3	36
	頸部捻挫 *6				09/30												3	38
①	右股関節捻挫 *1	10/13	10/14	12/07													3	27
	右膝関節捻挫 *2				12/06	●											3	26
	腰部捻挫 *3				12/09												3	28
②	左肘関節捻挫 *4	01/05	01/06	03/26													3	41
	左肩関節捻挫 *5				03/28												3	40
	頸部捻挫 *6				03/20												3	42

●は初検料

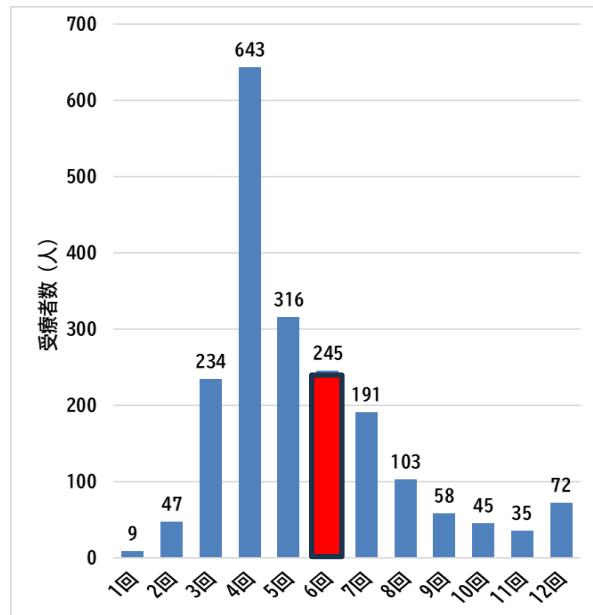
負傷名の*は同じ部位が繰り返し請求

負傷回数 : 4回
負傷部位数 : 12部位
実日数 : 157日
(平均 13.1日／月)
請求金額 : 177,636円

- ①と②の請求を繰り返している。

- 実際にどの部位を施術しているかは解らない。

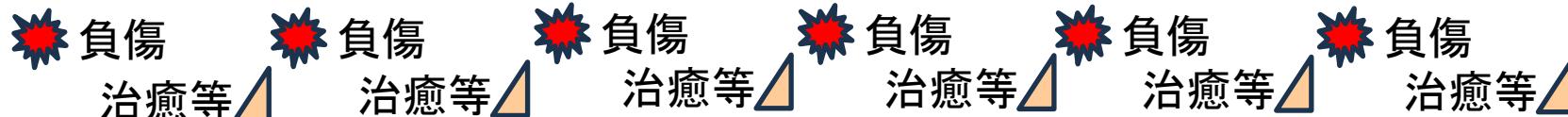
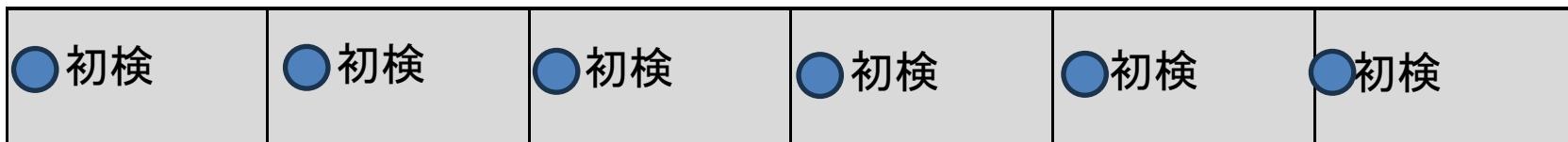
「部位転がし」が疑われる主なパターン分類



■初検日（新たな負傷）回数が6回

該当する245人中、**37名(15.1%)**が
2ヶ月ごとに負傷と治癒等を繰り
返していた。

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
----	----	----	----	----	----	-----	-----	-----	----	----	----



「部位転がし」が疑われる主なパターン分類

■初検日（新たな負傷）回数が6回の実例

	負傷名	負傷日	初検日	施術終了日	令和5年 4月	令和5年 5月	令和5年 6月	令和5年 7月	令和5年 8月	令和5年 9月	令和5年 10月	令和5年 11月	令和5年 12月	令和6年 1月	令和6年 2月	令和6年 3月	申請回数	実日数
①	右肩関節捻挫	04/09	04/10	05/28													2	8
	右大腿部挫傷				●												2	8
	腰部捻挫 *1																2	8
②	右膝関節捻挫 *2	06/01	06/02	07/23				●									2	11
	左下腿部挫傷 *3								●								2	11
	左股関節捻挫 *4																2	11
③	右足関節捻挫	08/07	08/08	09/28						●							2	12
	腰部捻挫 *1										●						2	12
	左大腿部挫傷																2	12
④	右背部挫傷	10/02	10/03	11/27							●						2	16
	右膝関節捻挫 *2											●					2	16
	左股関節捻挫 *4																2	16
⑤	腰部捻挫 *1	12/01	12/03	01/29								●					2	12
	左下腿部挫傷 *3												●				2	12
	左肩関節捻挫																2	12
⑥	右膝関節捻挫 *2	01/30	02/03	03/25										●			2	6
	左大腿部挫傷													●			2	6
	左背部挫傷														●		2	6

●は初検料

負傷名の * は同じ部位が繰り返し請求

- 2ヶ月毎に全身の全く関連のない部位を次々と負傷している。

負傷回数 : 6回
負傷部位数 : 18部位
実日数 : 65日
(平均 5.4日／月)
請求金額 : 83,836円

「部位転がし」が疑われる主なパターン分類

(参考) 請求金額が最も高かった申請のケース (例)

負傷名	負傷日	初検日	施術終了日	令和5年 4月	令和5年 5月	令和5年 6月	令和5年 7月	令和5年 8月	令和5年 9月	令和5年 10月	令和5年 11月	令和5年 12月	令和6年 1月	令和6年 2月	令和6年 3月	申請回数	実日数
右肩関節捻挫																2	
右手関節捻挫 *1	04/01	04/01	05/31	●	★											2	48
右肘関節捻挫 *2				★												2	
左肩関節捻挫 *3								●	★							2	
頸部捻挫 *4	05/26	06/01	07/31					●	★							2	49
腰部捻挫 *5							★									2	
右手関節捻挫 *1	07/25									●	★					1	
右肘関節捻挫 *2		08/01	08/31						●	★						1	23
左膝関節捻挫 *6	07/28								★							1	
左肩関節捻挫 *3	09/01	09/01	10/31						●	★						2	47
頸部捻挫 *4									★							2	
左足関節捻挫	11/01	11/02	12/29							●	★					2	46
左膝関節捻挫 *6										★						2	
左手関節捻挫	01/01	01/05	02/29								●	★				2	47
左肘関節捻挫											★					2	
腰部捻挫 *5	01/28	02/01	02/29									★				1	25
右足関節捻挫	03/02	03/02	03/30										●	★		1	23
右膝関節捻挫													★			1	

負傷と治癒等を繰り返すことで
初検料、再検料、施療料などを
多数算定している

●は初検料

★は施療料

負傷名の * は同じ部位が繰り返し請求

- 上記のような請求に至っても、制度上は自由に請求できる仕組みとなっている。

5. 「部位転がし」が疑われる受療形態とは（考察）

調査結果にもとづく総括（まとめ）

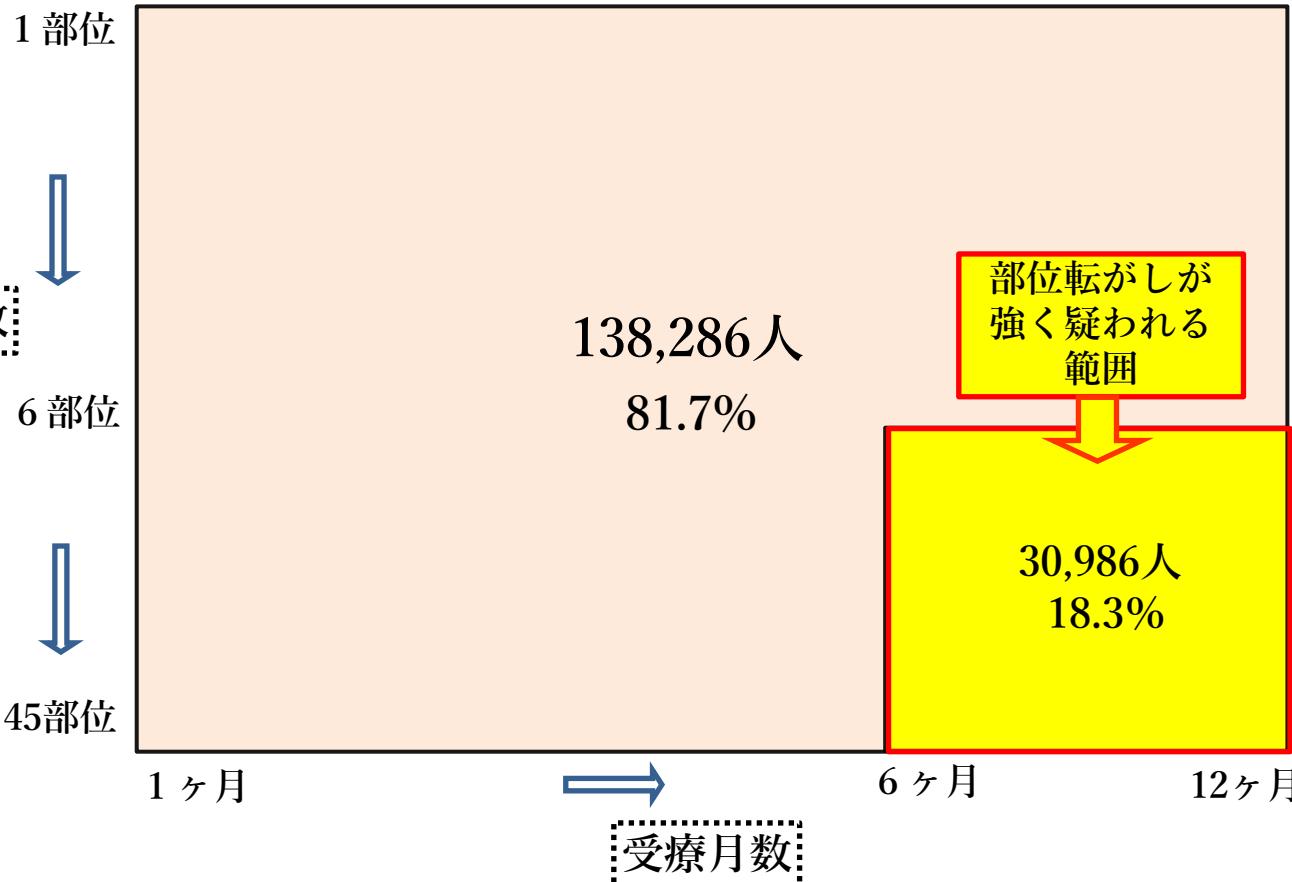
- 受療行動は様々であり、特定の受療行動で「部位転がし」を一律に定義することは困難であるが、一定の受療月数、負傷部位数、初検料等の算定回数から、「部位転がし」が疑われる対象を絞り込むことは可能ではないか。
- 受療行動の分析から、
 - 1回の負傷では平均2部位の施術が行われていること
 - 1つの部位に対して施術するのは平均2ヶ月～3ヶ月であることから、6ヶ月、6部位を施術するためには負傷と治癒等を1年間に2回～3回以上繰り返すこととなる。したがって、年間通算6ヶ月以上、6部位以上の施術を行っている場合に「部位転がし」を疑う条件とすることは一定の合理性があるのではないか。
- 1年間を通して継続的な施術の分析では、一定の部位の組み合わせが一定期間で繰り返し請求されており、施術部位と請求は全く異なるものであることが疑われる。
- また、初検料の算定について、約8割の患者が年間1回～2回以内の算定である。年間初検料算定回数が3回以上の患者については、分析結果から年間通算6ヶ月以上、6部位以上の部位で負傷と治癒等を繰り返していると考えられることから「部位転がし」が疑われる対象として一定の条件で施術行動を精査する必要がある。

部位転がしが疑われる受療形態とは（考察）

部位転がしが疑われる負傷部位数を6部位以上かつ受療月数を6ヶ月以上の施術を受療している患者と仮定すると、今回の調査では約2割の患者が該当する。

分布イメージ

n(人)=169,272



6. 「部位転がし」が疑われる受療形態に対する制度上の対応（案）

部位転がしに対する制度上の対応（案）

現行制度では、長期・頻回の施術を抑制するための対応は行われているが、日常的に行われている「部位転がし」についてこれを抑制するための対応はなく、制度上の対応を設計することが急務である。については、以下の対応案について検討すべきである。

1.患者毎の償還払いに以下の類型を追加する

患者毎の償還払いの類型に、「長期に亘り多部位施術を行っており、部位転がしが疑われる患者」を追加してはどうか。

具体的には、一定期間以上の長期の施術を受けている者であって一定以上の部位の施術を受けている者、又は、一定以上の初検料を算定している者を対象に償還払いに変更し、保険者が受療の必要性を精査してはどうか。

2.初検料等に遁減制を導入する

長期に亘り多部位施術を行っており、「部位転がし」が疑われる患者については一定以上の部位の初検料等に遁減制を導入してはどうか。

初検料等とは、初検料、再検料、施療料、初検時相談支援料等としてはどうか。

参考：部位転がしが強く疑われる患者に対するその他の分析

対象

1年間のうち、
受療月数12ヶ月連續
かつ
負傷部位数10部位
に該当する患者
1,613人

負傷部位数と受療月数の相関による患者分布

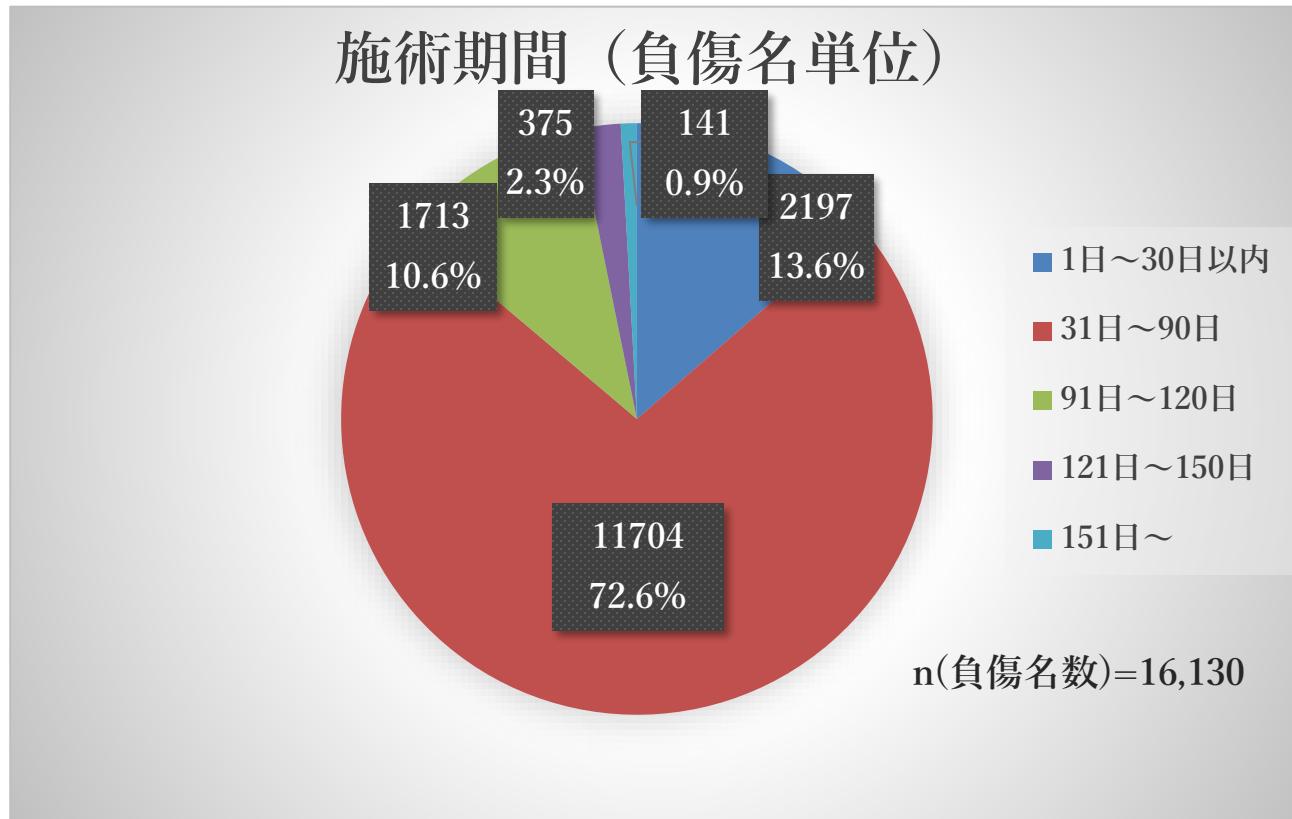
● 受療者数 (単位:人)		受療月数															
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	合計	構成比	累計	
負傷部位数	1	13,805	3,515	947	359	136	53	17	10	7	2	1	4	18,856	11.1%	11.1%	
	2	39,431	15,883	6,256	2,513	948	437	162	76	58	39	18	28	65,849	38.9%	50.0%	
	3	3,810	4,382	3,102	1,723	888	438	275	147	123	65	44	43	15,040	8.9%	58.9%	
	4	202	6,598	4,714	3,614	2,394	1,686	890	632	353	293	197	213	21,786	12.9%	71.8%	
	5	35	652	1,187	1,236	1,105	782	563	357	298	238	182	296	6,931	4.1%	75.9%	
	6	6	393	2,046	1,958	1,667	1,503	1,283	1,091	982	753	520	908	13,110	7.7%	83.6%	
	7	-	14	232	424	483	544	514	479	469	333	353	633	4,478	2.6%	86.3%	
	8	-	4	104	716	743	715	720	759	893	825	760	1,545	7,784	4.6%	90.9%	
	9	1	2	81	151	236	287	316	317	354	363	449	1,096	3,653	2.2%	93.0%	
	10	-	1	7	40	308	344	359	380	392	437	554	1,613	4,435	2.6%	95.7%	
	11	-	-	2	30	64	101	147	158	176	229	287	634	1,828	1.1%	96.7%	
	12	-	-	-	35	39	181	188	186	213	232	293	677	2,044	1.2%	97.9%	
	13	-	-	-	-	1	14	32	57	69	77	98	126	874	0.5%	98.5%	
	14	-	-	-	-	1	5	20	87	73	74	102	127	408	897	0.5%	99.0%
	15	-	-	-	-	3	13	13	25	36	52	50	78	266	536	0.3%	99.3%
	16	-	-	-	-	-	6	10	52	49	52	54	141	364	0.2%	99.5%	
	17	-	-	-	-	-	3	10	14	16	18	18	69	148	0.1%	99.6%	
	18	-	-	-	-	-	3	5	14	34	33	14	91	194	0.1%	99.7%	
	19	-	-	-	-	-	-	-	4	16	13	10	26	69	0.0%	99.8%	
	20	-	-	-	-	-	-	1	4	3	27	23	48	106	0.1%	99.8%	
	21	-	-	-	-	-	-	4	3	2	12	12	32	65	0.0%	99.9%	
	22	-	-	-	-	-	1	-	-	1	6	25	23	56	0.0%	99.9%	
	23	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	5	17	24	0.0%	99.9%	
	24	-	-	-	-	-	-	-	2	3	6	4	56	71	0.0%	100.0%	
	25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	10	11	0.0%	100.0%	
	26	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3	4	4	11	0.0%	100.0%	
	27	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	2	8	11	0.0%	100.0%	
	28	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	8	10	0.0%	100.0%	
	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	4	5	0.0%	100.0%	
	30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	-	9	11	0.0%	100.0%	
	31	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	2	4	0.0%	100.0%	
	32	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	1	2	0.0%	100.0%	
	33	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	4	4	0.0%	100.0%	
	34	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	0.0%	100.0%	
	35	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	0.0%	100.0%	
	36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	0.0%	100.0%	
	45	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	1	0.0%	100.0%	
合計		57,290	31,444	18,678	12,804	9,043	7,149	5,633	4,864	4,646	4,235	4,164	9,322	169,272	100.0%		
構成比		33.8%	18.6%	11.0%	7.6%	5.3%	4.2%	3.3%	2.9%	2.7%	2.5%	2.5%	5.5%	100.0%			
累計		33.8%	52.4%	63.5%	71.0%	76.4%	80.6%	83.9%	86.8%	89.5%	92.0%	94.5%	100.0%				

n(人)=169,272

- 負傷部位数 6 部位以上、かつ受療月数 6 ヶ月以上の範囲（黄色）は全体の 5 分の 1 （約18%）
- 特に12ヶ月連続で施術を受けている患者は、6部位～10部位の範囲（赤色）で人数が多い。

長期・多部位の施術期間の状況（負傷名単位）

- 12ヶ月連続受療かつ10部位患者（1,613人）における施術期間の状況
- ・ 負傷名単位の施術期間に着目

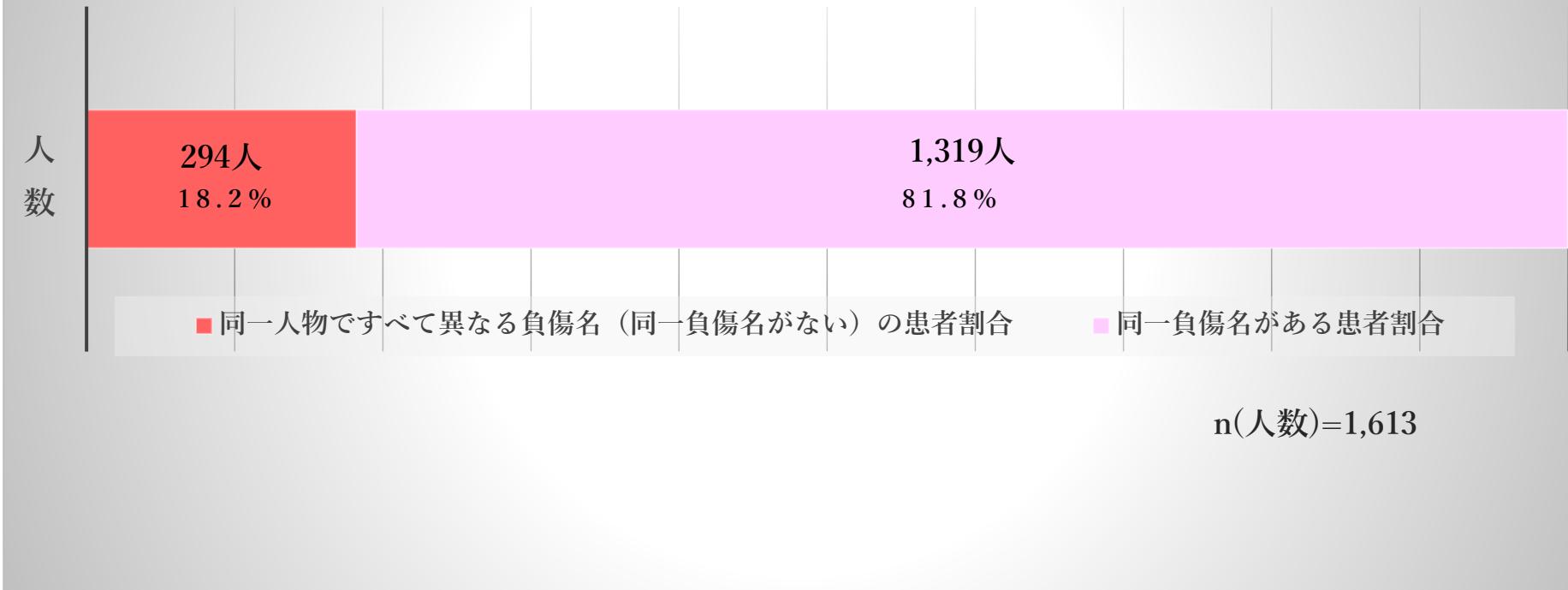


- 31日～90日の範囲が72.6%と圧倒的に多い。3ヶ月（30日）以内に施術を終了しているケースが非常に多いことがわかる。
- 一つの部位で5ヶ月超継続する割合は0.9%と非常に少ない。
- 短期の施術で部位を替えることにより、多部位の施術を行っていることが想定される。

同一負傷名の受療状況について

- 12ヶ月のうち、一度治癒等した同一負傷名が再度、繰り返されるかに着目

12ヶ月のうち同一人物で、すべて異なる負傷名又は同一負傷名がある患者の割合



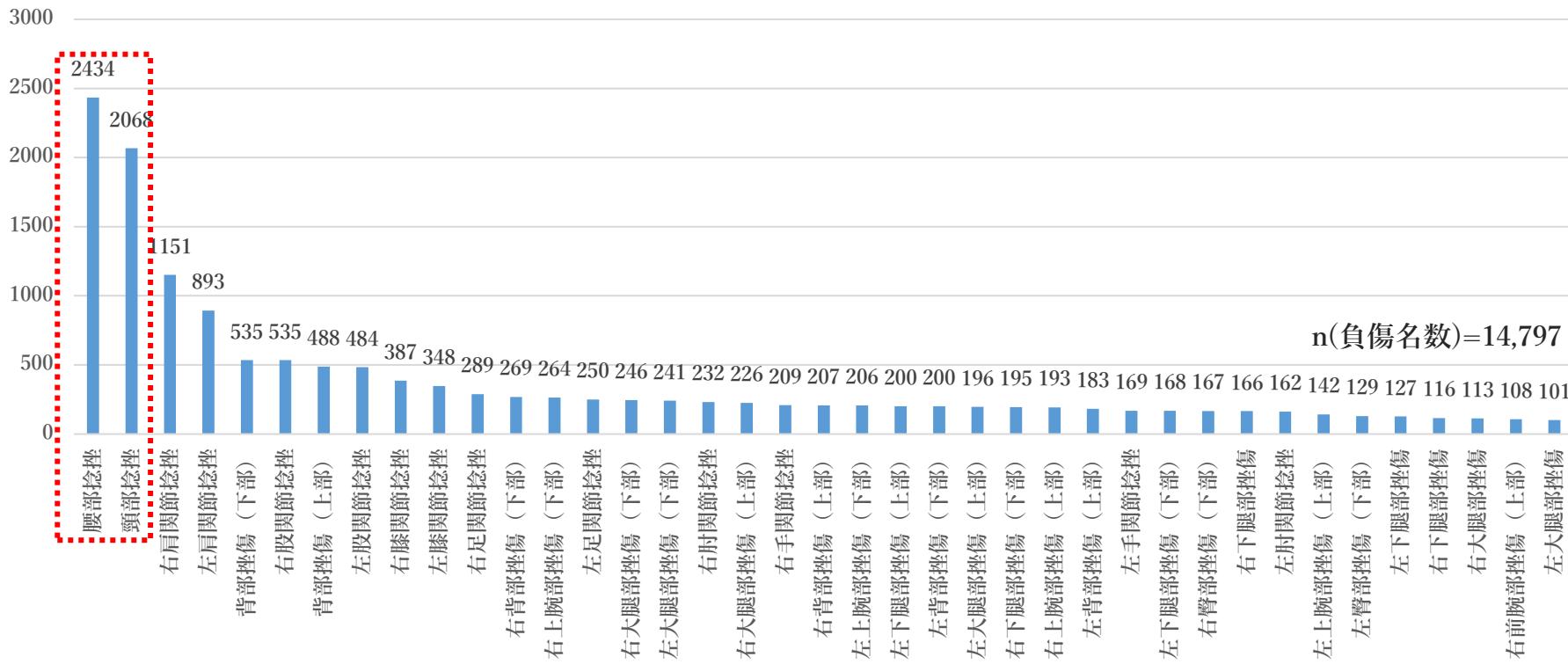
n(人数)=1,613

- 連続受療のうち、何らかの同一負傷名がある患者が8割と多い。一方、(同一負傷名がない)すべて異なる負傷により受療を継続している患者も2割程度存在する。
- 部位転がしには、同一部位が多く含まれている。

負傷名別の延べ回数について

- 全負傷名16,130（1613人×10部位）における 負傷名別の延べ回数に着目
(上位39負傷名、100回以上の負傷名数に限る)

負傷名延べ数（回数多い順）



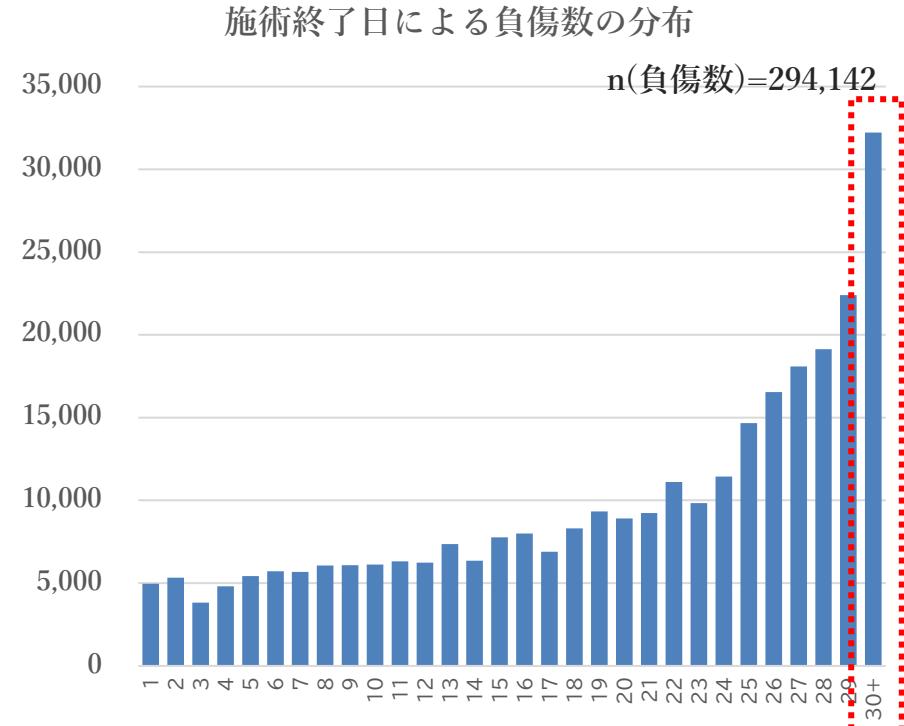
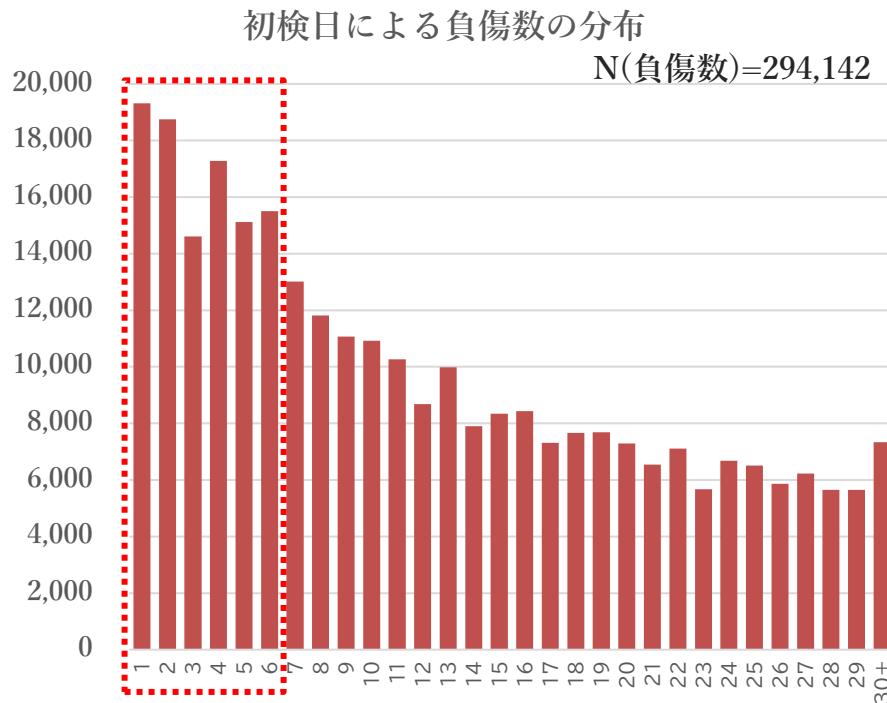
- 腰部捻挫、頸部捻挫が最も多い。
- 外傷性のない腰痛、首・肩こりを施術し、腰部捻挫、頸部捻挫として請求するケースが多いことが想定される。

初検日と施術終了日の状況

● 初検日と施術終了日の状況

・初検日と施術終了日の分布状況に着目

※初検日は、「施術を開始した日」であり、初検料算定日とは異なることに留意。



- 初検日は月初1日～6日（特に1日）が多い一方、施術終了日は月末が多い。
- 月初に負傷を開始して、月末に終了させ、翌月の月初に新たな負傷を開始するようなケースが多いことが考えられる。

年間受療月数・請求金額・実日数の相関

- 年間受療月数別の請求金額及び実日数
- 請求金額と実日数に着目

年間受療月数	1人1ヶ月当たり 請求金額(円)	1人1ヶ月当たり 実日数(日)
12	4,478	4.5
11	3,983	4.0
10	4,010	4.0
9	3,910	3.9
8	3,818	3.7
7	3,761	3.6
6	3,646	3.4
5	3,620	3.3
4	3,589	3.3
3	3,438	3.1
2	3,266	2.8
1	3,228	2.3

n(人)=27,746

- 受療月数が多くなるほど、1人1ヶ月あたり請求金額と1人1ヶ月あたり実日数も比例して、多くなる傾向にある。